

インフルエンザワクチン

2005.09.29

今年の7月から9月にかけて小児科はどこも閑散としていたようです。こどもにとって元気はなにより。毎年この時期は人から人へ移る感染症があまり多くない時期です。健康なときにこそワクチンをしっかりして、病気に備えるようにしましょう。母子手帳を見てまだしていないワクチンがありましたら、ぜひするようにしてください。

10月になると各医療機関でインフルエンザの予防接種が始まります。函館周辺では昨年は9月に終わりにインフルエンザの第1報があり、本格的な流行は1月からでB型が最初に流行し、5月近くまで流行するといった変則的なものでした。過去10年の流行を見てもみますとインフルエンザの流行の開始が12月の終わりから1月のはじめで、ピークのほとんどが2月の第2週ころです。ワクチンの効果が現われるのが、接種後2週間程度ということ考えると、少なくとも12月の中旬までには接種が完了していなければせっかくの痛いおもいが無駄になってしまいます。効果は小児では50%以下という報告がありますが、接種をしていたお子さんのほうがインフルエンザに罹ったとしても比較的軽症ですんでいるという印象をもっています。インフルエンザにかかってごくまれに発症するインフルエンザ脳症などの重い合併症には、接種をしていたか、していないかはあまり関係がないようです。卵のアレルギーのある方は接種できないことになっていますので、かかりつけの先生とよくご相談ください。13歳以上は1回、13歳未満は2回の接種が推奨されています。各医療機関で接種料金の違いがありますが、いつも体調を診てもらっているかかりつけの先生のところで打ってもらうのがベストです。お子さんの接種とともに、お父さんお母さんの接種もぜひしましょう。こどもには接種をするのに、痛いことはいやっでいっている大人を見ると、ちょっと寂しい気もします。